



春に花を咲かせる植物では、花で注目される種類も多いですが、花よりもその枝の利用されることで、有名な植物の一つにクロモジ（黒文字）があります。お茶席や和菓子などを食べる時の高級楊枝はクロモジから作られ、「黒文字楊枝」や単に「黒文字」と呼ばれます。

▼クロモジとは

クスノキ科クロモジ属に属する落葉低木で、和名は緑色を帯びた枝の表面に黒い斑紋ができ、それが文字のように見えることから、黒文字と名前がつけられた説があります。日本固有で、本州・四国・九州の丘陵地から山地部に生えますが、四国や九州では少ないとされています。茨城県内では主として山地部に見られ、丘陵地ではやや

里山に育む生きものたち

24 クロモジ

(クスノキ目 クスノキ科)

学名 *Lindera umbellata* Thunb.

写真・文 / 安 昌美

稀です。茨城県では越安と大戸で出会いましたが、町内では稀だと思えます。両地点とも落葉樹の疎林で、注意して探したわけではありませんが、1株だけだったと思います。クスノキ科の植物には芳香のあるものが多く、クロモジでは葉や枝を揉んだり、折ったりしますとよい香りがします。町内ではクロモジとすぐ分かります。芳香は樹皮の部分に含まれています。芳香は枝は皮付きで作られます。他にクロモジのお茶もおいしい(?)です。

▼クロモジの生活

クロモジは雌雄が別株で、花は4月には開花しますが、一つの花は小さくて、花弁は淡黄緑色です。しかし、集まって咲きますので虫を招くには好都合です。雌花では1個の雌しべと9本の仮

雄しべ、雄花では雌しべはなく、9本の雄しべしかありません。茨城県では花や果実のある個体をみていませんで、各個体の雌雄はまだ分かりません。花粉の受け渡しには虫の手助けが必要ですが、近くに仲間の株があれば、容易でしょうが、春先のまだ虫の少ない時期ですから結実も容易なことではなさそうです。果実は秋に黒く熟します。クロモジは春先の冬を越した芽の観察が楽しいです。写真は3月の枝先の状態です。紡錘形の長い芽は葉芽と呼ばれ、葉が広がっていきます。両側の球形の芽は花芽と呼ばれ、中に花が沢山準備されています。このように葉や花になる芽が別々にできる植物にはソメイヨシノ、ツバキ、ハナミズキなど身近なものもありますので注意してみましよう。ニワトコ、ナシなど二つの芽から葉や花が広がってくる芽を混芽と呼びます。

▼クロモジの仲間

クロモジ属はアジアを中心に温帯から亜熱帯に100種ほどが知られ、日本には10種ほどとされています。茨城県内ではヤマコウバシ、ダンコウバイ、アブラチャン、クロモジが記録されています。町内ではダンコウバイにはありませんが、他は少ないですが見られます。

編集・発行 / 茨城県総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤 1080 TEL029-292-1111 FAX029-292-6748
ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp

DATA

茨城町の人口と世帯数 ※カッコ内は前月比です。(住民基本台帳 平成26年2月28日現在)
◆総人口 34,031人 (-29) 男 17,024人 (-22) 女 17,007人 (-7) ◆世帯 12,513世帯 (-12)

DATA

再生紙を使用しています



環境に優しい大豆インクを使用しています